

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	72.7%	79.4%	67.0%	61.4%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	3,552	4,872	5,741	4,878	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	9.9	13.5	15.9	13.6	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○	○	%					近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による
<small>注)全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</small>										

一般入試以外の各種入試による入学者の割合は、目標値（40%）に近づきつつあり、これまでの方策が間違っていないことがうかがえる。この調子で引き続き、努力して行けば良い。社会人・留学生・帰国生徒の入学は少ないが、理系の場合、特に学部においては非常に限られた対象者しか存在しないので、少なくとも現在の日本の教育現状では、学部レベルの努力で入学者を増やすことは困難である。志願者総数・倍率ともに高水準を維持しているが、入試の現状はこれからも厳しい状況にあることに変わりはないので、引き続き地道な努力を継続して行くことが肝要である。

学内第三者評価

入試の多様化を図り、推薦入試の拡充を行って、一般入試以外の合格者の比率が目標の40%に近づいていることから、入試制度の見直しは当初の方針に沿って堅調に進捗している。一般入試についても志願者数や合格倍率を高い水準で維持していることは評価できる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
AO入試や高大連携で積極的な取り組みをしており、その試行を今後に生かしていくことが期待される。